

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 1月 14日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、こどもの発達や課題について、共通理解をもっていること。	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や口頭、電話など、様々な手段で保護者とやりとりしている。 発達相談会や懇談会などを開催している。 職員間での情報共有を重視している。 	<ul style="list-style-type: none"> 園で行っている支援方法を保護者が実際に見たり、職員が助言できる機会があればよい。 ペアレントトレーニングなど保護者の勉強会を開く。
2	毎日通園であるため、子どもたちのわずかな変化に気が付きやすく、成長を見守ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との情報共有を密に行っている。 子どもの変化に対し、対応すべきところは早急に対応するようになっている。 	親子通園や並行通園など、別の形態の通園方法も検討し、より、子どもたちが成長できる環境を整える。
3	日々のプログラムを工夫し、子ども達一人一人が成長につなげられるように設定している。	<ul style="list-style-type: none"> アイデアを出し合い、子どもたちの個別の力に合うように段階をつけて提示している。 過去のものを参考に、ブラッシュアップさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育そのものの実施方法について、対外的な研修も取り入れていく。 体操教室など外部講師なども検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちが定型発達の子どもたちと触れ合う機会がない。	そうした視点を持っていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の幼稚園や保育園に働きかけ、交流を持つ機会を検討する。 実施の際は、保護者の意見を聴取する。
2	個別療育を掲げているが、実施できるのは一部である。	人員の不足	限られた人員でも効率的、効果的に訓練が実施できるよう、業務の見直しを行っていく
3	経験年数の浅い職員が多く、制度やマニュアル等への理解が薄い。	日々の取り組みの中に、マニュアル等が活かされていない。	マニュアルや福祉制度に関する研修を行っていく。